

1 年生へ...仕事や勉強の心構え説く

「ダイバースリーダー」講演会で卒業生 4 人

総合型選抜学生による企画講演会が7、9、10日に開かれ、現在の卒業生4人が学部1年生に向けて、現在の仕事の内容や学生時代の心構えなどについて語りかけました。



看護学科の1年生を前に、自身の仕事内容を説明する古閑さん（右端）

総合型選抜学生に対して行っている教育プログラム「ダイバースリーダー創発プログラム (Dive! LSP)」の一環で、18人の2年生が各学科・専攻の1年生に向けて自主企画したものです。対象を医学検査学科、看護学科、リハビリテーション学科 理学療法学専攻・生活機能療法学専攻、同言語聴覚学専攻の4グループに分けて実施。「先輩に聞く！～キャンパスライフ編」と銘打ち、それぞれのOB、OGに白羽の矢を立てて準備してきました。

7日に五十周年記念館で行った看護学科への講演会では、済生会熊本病院に看護師として勤務する古閑直哉さん（2019年3月卒業）が教壇に立ちました。在学中、学友会副会長を務めていたという古閑さんは、勤務する同病院心臓血管センターでの日々の業務内容を紹介した後、医療人として求められるものとしてコミュニケーション力、チームワーク、自己啓発を挙げていました。さらに、「（在学中は）いろんな人とかかわりを持つことで、視野を広げてほしい」などとアドバイス。会場からの質問にも答えていました。

このほかの演者は次の通りです。

▽医学検査学科（7日） 原口実紗講師（医学検査学科講師）

▽理学療法学・生活機能療法学専攻（9日） 本田啓太講師（理学療法学専攻講師）

▽言語聴覚学専攻（10日） 坂田圭士郎さん（本学大学院2年、アカデミックスキル支援センター外部指導員）

今回の講演会は、総合型選抜の2年生（18人）による自主企画として開催されました。各会場での司会進行も学生が務め、講演後は大学生活に関するアドバイスを中心としたプレゼンテーションも行いました。

学生の手で企画運営

企画の中心となった船越海人さん（理学療法学専攻2年）によると、「コロナ禍の中で自分達が抱いた不安や心配事を今年の1年生も抱えているのではないか」と思い、少しでも取り除いてあげたいという思いから考案した」ということです。講師の選定や1年生の“集客”など、すべて自分たちの手で企画することは「大変でした」と振り返る一方で、「1年生からの評判もよく、とても達成感を得られました」と、充実感にあふれた表情を見せていました。

「不安取り除いてあげたい」



大学生活を送る“コツ”などをプレゼンテーションする看護学科2年の学生たち

医学検査学科

亀山 広喜講師

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻

井崎 基博准教授

図書館、学術研究部、人事課の共催による「サイエンスカフェ」が14日（火）、キャンパステラスで開催されました。今回は、P&P報告会と学長裁量経費成果報告を兼ねており、医学検査学科の亀山広喜講師とリハビリテーション学科言語聴覚学専攻の井崎基博准教授が演題に立ちました。参加20人。

亀山講師は「H69AR細胞における胎盤型cadherin (P-cadherin) の機能解析」と題して発表。癌の転移において細胞の運動能が変化する現象の上皮間葉転換 (EMT) について、細胞接着分子の一つであるP-cadherinの機能解析を中心に行っている研究成果を報告しました。また現在行っているスフェロイド培養 (3次元培養) についての説明もあわせて行いました。

一方、「周りが変われば、自閉症は変わる 発達心理学に基づく自閉症の研究、自閉症の教育」と題した井崎准教授は、冒頭レオ・レオニの絵本「フレデリック」を紹介。冬に備え餌を集めるネズミたちと、対照的に様々な理由をつけて一緒に働かないフレデリック。このフレデリックを非難せず、さらに彼に詩の才能があることを発見する周りのネズミたちのあり方が、自閉症を持つ学生を見守る私たちに必要なあり方だと前置きした上で、大学教育改革推進プログラム (学長裁量経費) の成果報告をしました。



私の秘話
★
ヒストリー

リハビリテーション学科生活機能療法学専攻

松尾 崇史 講師



教員になってからというもの、順調な右肩上がりの体重増加。この天井効果の見えない現象に終止符を打つため、何か始めないといけないと思い1か月ほど前からゴルフを始めました。始めたと言ってもまだ2回程度しか練習場には行けていませんが。

妻も私の健康面や運動不足を気にしていたのでしよう。私がゴルフをしようかなと呟いた数週間後、玄関にクラブセットが置いてありました。こうなると流石に隙間時間で練習場に足を向けるようになるわけです。それなりに専門書も読み、先輩を誘いご指導を頂きながら取り組みましたが・・・なんということでしょう。ゴルフとは何と窮屈な動きをするスポーツでしょうか。7番アイアンで練習しなさいと先輩に言われ、ひたすら打ち続け、玉は真っすぐ飛ぶようになり少し楽しくなってきました。続けられそうです。しかし、2回の練習でヘッドとシャフトのつなぎ目が曲がりました。買わないといけません。妻にはまだ話しておりません。



健康考えゴルフ
始めたもの
:

◆アリーナ内にジムオープン！ アリーナ内に様々な評価機器とトレーニング機器を設置したアスリートゾーンとフィットネスゾーンが13日（月）、オープンしました。アスリートゾーンはアリーナの床スペースの一角、フィットネスゾーンは会議室に設置されています。また、ステージは必要に応じてプログラムゾーンに早変わり。プロジェクターから映し出されるダイエット・プログラムに従って汗をかくことができます。14日（火）、16日（木）に実施された利用講習会にも多くの教職員が参加しました。健康・スポーツ教育研究センター事務の中村祐貴さんは「トレーニング・エクササイズはもちろん、持ち運び可能な軽量マットも用意しているので、ストレッチのためだけでも立ち寄って利用してもらえれば、分からないことがあればお問い合わせ下さい」と話していました。なお、ジムの利用を開始するためには、利用講習会への参加が必須。利用可能日は水曜を除く平日17時～20時半。TEL：096(275)2151・中村さん。（安部悠介）



プログラムゾーンでエアロビクスを楽しむ利用者たち

◆熊本市内3カ所で進学ガイダンス 進学ガイダンスが7日（火）、ホテル日航熊本、熊本城ホール、熊本市総合体育館で開催されました。各会場では、大学、短大、専門学校ごとにブースを設け、各校の担当者が高校生や保護者に魅力を伝えたり、質問や相談に応じたりしていました。本学ブースには3カ所で計64人の高校生が訪れ

ました。まだ大学や学部学科の選定が済んでいない生徒や、本学を第一志望とする生徒など、様々でした。6月は九州各地で行われる進学ガイダンスに参加します。より多くの生徒に興味を持っていただけるよう熊保大の魅力を伝えます。（入試・広報課）

今週の1枚 



「ホカボン」限定シール

図書館でイベント参加者に配布している限定シールです。アジサイと本学図書館キャラクター「ホカボン」があしらってあります。14日（火）、サイエンスカフェ参加者に配られました。次回27日（月）開催予定の「私の部屋でランチを」でももらえます。皆さん、ぜひご参加ください。（安部悠介）

来月22、23日に「第42回阿蘇シンポ」

熊本城ホール

一般財団法人・化学及血清療法研究所（化血研）が主催する「第42回阿蘇シンポジウム」が7月22日（金）、23日（土）の両日、熊本市中央区の熊本城ホールで開かれます。

今回は「PandemicからPrecision Medicineへの展開」をテーマに、感染症、免疫、血液学分野の第一線で活躍する研究者12人が講演します。昨年に続きwebでも配信します。定員は現地参加120人、web参加は500人です。参加無料ですが、事前登録が必要です。登録申し込みは、右QRコード、もしくは、<https://www.kaketsuken.org/aso-symposium.html>へ。締め切りは7月8日（金）。



登録サイト



第42回 阿蘇シンポジウム

2022年7月22日(金) 13:00-18:25
23日(土) 9:00-12:25

司会：大賀 正一、澤 新一郎、原田 実根

7.22 program

- 13:00～13:05 はじめに
- 13:05～13:45 01 佐藤 佳 (東京大学 医科学研究所 システムウイルス学分野) 新型コロナウイルスの進化
- 13:45～14:25 02 岡田 賢 (広島大学 大学院医系科学研究科 小児科学) COVID-19重症化と宿主免疫
- 14:25～14:45 コーヒーブレイク
- 14:45～15:25 03 荒瀬 尚 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター・微生物研究所 免疫化学分野) 新型コロナウイルス感染症における宿主病原体相互作用
- 15:25～16:05 04 高橋 宜聖 (国立感染症研究所) ワクチン有効性・安全性の基盤となる免疫応答
- 16:05～16:25 コーヒーブレイク
- 16:25～17:05 05 三宅 健介 (東京大学 医科学研究所 感染遺伝学分野) リソソーム核膜ストレスに対するマクロファージ応答によって誘導される疾患
- 17:05～17:45 06 澤 新一郎 (九州大学 生体防御医学研究所) 粘膜免疫防御の最前線
- 17:45～18:25 07 中山 俊憲 (千葉大学) 病原性免疫記憶と慢性難治性炎症の成立：病原性Th2細胞
- 19:00～ 懇親会

7.23 program

- 09:00～09:40 08 小川 誠司 (京都大学 大学院医学研究科 腫瘍生物学) 白血病の遺伝的素因に関する近年の知見について
- 09:40～10:20 09 高田 稔 (京都大学 大学院生命科学研究所 ゲノム損傷応答学 附属放射線生物研究センター 発効効果研究部門 DNA損傷シグナル研究分野) 複製ストレス応答とヒト疾患メカニズム
- 10:20～10:40 コーヒーブレイク
- 10:40～11:10 10 前田 高宏 (九州大学 大学院医学研究科 プレシジョン医療学分野) ゲノム医療の実装と治療への展開 1：血液/がん
- 11:10～11:40 11 大賀 正一 (九州大学 大学院医学研究科 成長発達医学) ゲノム医療の実装と治療への展開 2：新生児/小児
- 11:40～12:20 12 河本 宏 (京都大学 医生物学研究所 再生免疫学分野) IPS細胞を材料とした即納型汎用性T細胞製剤の開発 —がんおよびウイルス感染症への応用—
- 12:20～12:25 おわりに



テーマ
Pandemicから
Precision Medicineへの展開

第42回 阿蘇シンポジウム

42nd ASO SYMPOSIUM

2022 7.22至 23日 事前参加登録

会場：熊本城ホール シビックホール (Hybrid形式)

- moderator
大賀 正一、澤 新一郎、原田 実根
- speaker
- 01 佐藤 佳 (東京大学 医科学研究所 システムウイルス学分野)
 - 02 岡田 賢 (広島大学 大学院医系科学研究科 小児科学)
 - 03 荒瀬 尚 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター・微生物研究所 免疫化学分野)
 - 04 高橋 宜聖 (国立感染症研究所)
 - 05 三宅 健介 (東京大学 医科学研究所 感染遺伝学分野)
 - 06 澤 新一郎 (九州大学 生体防御医学研究所)
 - 07 中山 俊憲 (千葉大学)
 - 08 小川 誠司 (京都大学 大学院医学研究科 腫瘍生物学)
 - 09 高田 稔 (京都大学 大学院生命科学研究所 ゲノム損傷応答学 附属放射線生物研究センター 発効効果研究部門 DNA損傷シグナル研究分野)
 - 10 前田 高宏 (九州大学 大学院医学研究科 プレシジョン医療学分野)
 - 11 大賀 正一 (九州大学 大学院医学研究科 成長発達医学)
 - 12 河本 宏 (京都大学 医生物学研究所 再生免疫学分野)



【主催】一般財団法人 化学及血清療法研究所